



debug コマンド : a ~ i

- [debug aaa](#) (3 ページ)
- [debug aaa events](#) (5 ページ)
- [debug aaa local-auth](#) (6 ページ)
- [debug airewave-director](#) (8 ページ)
- [debug ap](#) (10 ページ)
- [debug ap enable](#) (12 ページ)
- [debug ap packet-dump](#) (14 ページ)
- [debug ap show stats](#) (15 ページ)
- [debug ap show stats video](#) (17 ページ)
- [debug arp](#) (18 ページ)
- [debug avc](#) (19 ページ)
- [debug bcast](#) (20 ページ)
- [debug call-control](#) (21 ページ)
- [debug capwap](#) (22 ページ)
- [debug capwap reap](#) (24 ページ)
- [debug ccxdia](#) (25 ページ)
- [debug ccxrm](#) (26 ページ)
- [debug ccxs69](#) (27 ページ)
- [debug cckm](#) (28 ページ)
- [debug client](#) (29 ページ)
- [debug cts aaa](#) (30 ページ)
- [debug cts authz](#) (31 ページ)
- [debug cts capwap](#) (32 ページ)
- [debug cts env-data](#) (33 ページ)
- [debug cts ha](#) (34 ページ)
- [debug cts key-store](#) (35 ページ)
- [debug cts provisioning](#) (36 ページ)
- [debug cts sgt](#) (37 ページ)
- [debug cts sxp](#) (38 ページ)

- debug cac (39 ページ)
- debug cdp (41 ページ)
- debug crypto (42 ページ)
- debug dhcp (43 ページ)
- debug dhcp service-port (44 ページ)
- debug disable-all (45 ページ)
- debug dns (46 ページ)
- debug dot11 (47 ページ)
- debug dot11 (48 ページ)
- debug dot11 mgmt interface (49 ページ)
- debug dot11 mgmt msg (50 ページ)
- debug dot11 mgmt ssid (51 ページ)
- debug dot11 mgmt state-machine (52 ページ)
- debug dot11 mgmt station (53 ページ)
- debug dot1x (54 ページ)
- debug dtls (55 ページ)
- debug fastpath (56 ページ)
- debug flexconnect avc (62 ページ)
- debug flexconnect aaa (63 ページ)
- debug flexconnect acl (64 ページ)
- debug flexconnect cckm (65 ページ)
- debug group (66 ページ)
- debug fmchs (67 ページ)
- debug flexconnect client ap (68 ページ)
- debug flexconnect client ap syslog (69 ページ)
- debug flexconnect client group (70 ページ)
- debug flexconnect client group syslog (71 ページ)
- debug flexconnect group (72 ページ)
- debug ft (73 ページ)
- debug hotspot (74 ページ)
- debug ipv6 (75 ページ)

debug aaa

AAA の設定のデバッグを設定するには、**debug aaa** コマンドを使用します。

```
debug aaa {[all | avp-xml | detail | events | packet | ldap | local-auth | tacacs]
[enable | disable]}
```

構文の説明

all	(任意) すべての AAA メッセージのデバッグを設定します。
avp-xml	(任意) AAA Avp xml イベントのデバッグを設定します。
detail	(任意) AAA エラーのデバッグを設定します。
events	(任意) AAA イベントのデバッグを設定します。
packet	(任意) AAA パケットのデバッグを設定します。
ldap	(任意) AAA Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) イベントのデバッグを設定します。
local-auth	(任意) AAA ローカル拡張認証プロトコル (EAP) イベントのデバッグを設定します。
tacacs	(任意) AAA TACACS+ イベントのデバッグを設定します。
enable	(任意) デバッグを有効にします。
disable	(任意) デバッグを無効にします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、AAA LDAP イベントのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug aaa ldap enable
```

関連コマンド

debug aaa local-auth eap
show running-config

debug aaa events

DNS ベースの ACL に関連するデバッグを設定するには、**debug aaa events enable** コマンドを使用します。

debug aaa events enable

構文の説明

events DNSベースのACLのデバッグを設定します。

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

7.6 このコマンドが追加されました。

次に、DNS ベースの ACL のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug aaa events enable
```

debug aaa local-auth

Cisco WLC で AAA ローカル認証のデバッグを設定するには、**debug aaa local-auth** コマンドを使用します。

```
debug aaa local-auth {db | shim | eap {framework | method} {all | errors | events
| packets | sm}} {enable | disable}
```

構文の説明	db	AAA ローカル認証バックエンドメッセージおよびイベントのデバッグを設定します。
	shim	AAA ローカル認証シム レイヤ イベントのデバッグを設定します。
	eap	AAA ローカル拡張認証プロトコル (EAP) 認証のデバッグを設定します。
	framework	ローカル EAP フレームワークのデバッグを設定します。
	method	ローカル EAP 方式のデバッグを設定します。
	all	ローカル EAP メッセージのデバッグを設定します。
	errors	ローカル EAP エラーのデバッグを設定します。
	events	ローカル EAP イベントのデバッグを設定します。
	packets	ローカル EAP パケットのデバッグを設定します。
	sm	ローカル EAP ステートマシンのデバッグを指定します。
	enable	デバッグを開始します。
	disable	デバッグを終了します。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、AAA ローカル EAP 認証のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug aaa local-auth eap method all enable
```

関連コマンド

- clear stats local-auth**
- config local-auth active-timeout**
- config local-auth eap-profile**
- config local-auth method fast**
- config local-auth user-credentials**
- show local-auth certificates**
- show local-auth config**
- show local-auth statistics**

debug airewave-director

Airewave Director ソフトウェアのデバッグを設定するには、**debug airewave-director** コマンドを使用します。

```
debug airewave-director {all | channel | detail | error | group | manager | message
| packet | power | profile | radar | rf-change} {enable | disable}
```

構文の説明

all	すべての Airewave Director ログのデバッグを設定します。
channel	Airewave Director チャンネル割り当てプロトコルのデバッグを設定します。
detail	Airewave Director 詳細ログのデバッグを設定します。
error	Airewave Director エラー ログのデバッグを設定します。
group	Airewave Director グループ化プロトコルのデバッグを設定します。
manager	Airewave Director マネージャのデバッグを設定します。
message	Airewave Director メッセージのデバッグを設定します。
packet	Airewave Director パケットのデバッグを設定します。
power	Airewave Director 電力割り当てプロトコルおよびカバレッジ ホール検出のデバッグを設定します。
profile	Airewave Director プロファイル イベントのデバッグを設定します。
radar	Airewave Director レーダー検出/回避プロトコルのデバッグを設定します。
rf-change	Airewave Director rf 変更のデバッグを設定します。
enable	Airewave Director のデバッグを有効にします。
disable	Airewave Director のデバッグを無効にします。

コマンドデフォルト なし

コマンド履歴

リリース

変更内容

7.6

このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

次に、Airewave Director プロファイルイベントのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug airewave-director profile enable
```

関連コマンド

debug disable-all

show sysinfo

debug ap

Cisco Lightweight アクセス ポイントのリモート デバッグを設定したり、Lightweight アクセス ポイントでコマンドをリモートで実行したりするには、**debug ap** コマンドを使用します。

debug ap {**enable** | **disable** | **command cmd**} *cisco_ap*

構文の説明	enable	Lightweight アクセス ポイント上でのデバッグを有効にします。
		(注) デバッグ情報はコントローラのコンソール上だけに表示され、コントローラの Telnet/SSH CLI セッションに出力は送信されません。
	disable	Lightweight アクセス ポイント上でのデバッグを無効にします。
		(注) デバッグ情報はコントローラのコンソール上だけに表示され、コントローラの Telnet/SSH CLI セッションに出力は送信されません。
	command	アクセス ポイントで CLI コマンドが実行されることを指定します。
	<i>cmd</i>	実行するコマンド。
		(注) 実行するコマンドは、二重引用符で囲む必要があります (例: debug ap command "led flash 30" AP03) 。
		コマンドの出力はコントローラのコンソール上だけに表示され、コントローラの Telnet/SSH CLI セッションに出力は送信されません。
	<i>cisco_ap</i>	Cisco Lightweight アクセス ポイントの名前。
コマンド デフォルト	Cisco Lightweight アクセス ポイントのリモート デバッグは無効です。	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、アクセス ポイント AP01 でリモート デバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ap enable AP01
```

次に、アクセス ポイント AP02 で **config ap location** コマンドを実行する例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ap command "config ap location "Building 1" AP02"
```

次に、アクセス ポイント AP03 でフラッシュ LED コマンドを実行する例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ap command "led flash 30" AP03
```

debug ap enable

Cisco Lightweight アクセス ポイントのリモート デバッグを設定したり、Lightweight アクセス ポイントでコマンドをリモートで実行したりするには、**debug ap enable** コマンドを使用します。

debug ap {**enable** | **disable** | **command cmd**} *cisco_ap*

構文の説明	enable	リモート デバッグを有効にします。 (注) デバッグ情報はコントローラのコンソール上だけに表示され、コントローラの Telnet/SSH CLI セッションに出力は送信されません。
	disable	リモート デバッグを無効にします。
	command	アクセス ポイントで CLI コマンドが実行されることを指定します。
	<i>cmd</i>	実行するコマンド。 (注) 実行するコマンドは、二重引用符で囲む必要があります (例 : debug ap command "led flash 30" AP03) 。 コマンドの出力はコントローラのコンソール上だけに表示され、コントローラの Telnet/SSH CLI セッションに出力は送信されません。
	<i>cisco_ap</i>	Cisco Lightweight アクセス ポイント名。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、アクセス ポイント AP01 でリモート デバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ap enable AP01
```

次に、アクセス ポイント AP02 でリモート デバッグを無効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ap disable AP02
```

次に、アクセスポイント AP03 でフラッシュ LED コマンドを実行する例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ap command "led flash 30" AP03
```

debug ap packet-dump

パケット キャプチャのデバッグを設定するには、**debug ap packet-dump** コマンドを使用します。

debug ap packet-dump {enable | disable}

構文の説明

enable アクセスポイントのパケットキャプチャのデバッグを有効にします。

disable アクセスポイントのパケットキャプチャのデバッグを無効にします。

コマンド デフォルト

パケット キャプチャのデバッグは無効です。

コマンド履歴

リリース

変更内容

7.6

このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

使用上のガイドライン

Cisco WLC 間ローミング中には、パケット キャプチャは機能しません。

Cisco WLC では、ビーコンやプローブの応答など、無線ファームウェアに作成され、アクセスポイントから送信されたパケットをキャプチャしません。Tx パスで無線ドライバを通過するパケットだけがキャプチャされます。

次に、アクセスポイントからのパケットキャプチャのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ap packet-dump enable
```

debug ap show stats

Cisco Lightweight アクセスポイントのビデオメッセージおよび統計情報のトラブルシューティングを行うには、**debug ap show stats** コマンドを使用します。

```
debug ap show stats {802.11a | 802.11b} cisco_ap {tx-queue | packet | load | multicast
| client {client_MAC | video | all} | video metrics}
```

```
debug ap show stats video cisco_ap {multicast mgid mgid_database_number | admission |
bandwidth}
```

構文の説明	802.11a	802.11a ネットワークを指定します。
	802.11b	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<i>cisco_ap</i>	Cisco Lightweight アクセス ポイント名。
	tx-queue	AP の送信キューのトラフィック統計情報を表示します。
	packet	AP のパケット統計情報を表示します。
	load	AP の QoS Basic Service Set (QBSS) とその他の統計情報を表示します。
	multicast	AP のマルチキャストサポート対象レート統計情報を表示します。
	client	指定されたクライアントのメトリック統計情報を表示します。
	<i>client_MAC</i>	クライアントの MAC アドレス。
	video	AP のすべてのクライアントのビデオ統計情報を表示します。
	all	AP のすべてのクライアントの統計情報を表示します。
	video metrics	ビデオメトリック統計情報を表示します。
	mgid	単一マルチキャスト グループ ID (MGID) の詳細なマルチキャスト情報を表示します。
	<i>mgid_database_number</i>	レイヤ 2 MGID データベース番号。
	admission	AP のビデオ アドミッション制御を表示します。

	bandwidth	AP のビデオ帯域幅を表示します。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11a ネットワーク上でアクセスポイント AP01 送信キュー トラフィックのトラブルシューティングを行う例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ap show stats 802.11a AP01 tx-queue
```

次に、802.11b/g ネットワーク上でアクセスポイント AP02 マルチキャストサポート対象レートのトラブルシューティングを行う例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ap show stats 802.11b AP02 multicast
```

次に、802.11a ネットワーク上で、アクセスポイント AP01 とアソシエートされている MAC アドレスで識別されるクライアントのメトリックのトラブルシューティングを行う例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ap show stats 802.11a AP01 client 00:40:96:a8:f7:98
```

次に、802.11a ネットワーク上で、アクセスポイント AP01 とアソシエートされているすべてのクライアントのメトリックのトラブルシューティングを行う例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ap show stats 802.11a AP01 client all
```


debug ap show stats video

Cisco Lightweight アクセスポイントのビデオメッセージおよび統計情報のデバッグを設定するには、**debug ap show stats video** コマンドを使用します。

```
debug ap show stats video cisco_ap { multicast mgid mgid_value | admission | bandwidth }
```

構文の説明	<i>cisco_ap</i>	Cisco Lightweight アクセスポイント名。
	multicast mgid	アクセスポイントの指定 MGID に対するマルチキャストデータベース関連情報を表示します。
	<i>mgid_value</i>	1 ~ 4095 のレイヤ 2 MGID データベース番号。
	admission	ビデオ アドミッション制御を表示します。
	bandwidth	ビデオ帯域幅を表示します。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、グループのレイヤ 2 MGID データベース番号で識別されたアクセスポイント AP01 のマルチキャストグループのデバッグを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ap show stats video AP01 multicast mgid 50
```

次に、アクセスポイント AP01 のビデオ帯域幅のデバッグを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ap show stats video AP01 bandwidth
```

debug arp

Address Resolution Protocol (ARP) オプションのデバッグを設定するには、**debug arp** コマンドを使用します。

debug arp {all | detail | events | message} {enable | disable}

構文の説明	all	すべての ARP ログのデバッグを設定します。
	detail	ARP の詳細メッセージのデバッグを設定します。
	error	ARP エラーのデバッグを設定します。
	message	ARP メッセージのデバッグを設定します。
	enable	ARP デバッグを有効にします。
	disable	ARP デバッグを無効にします。

コマンド デフォルト なし

コマンド履歴 リリース 変更内容
ス

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、ARP デバッグ設定を有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug arp error enable
```

次に、ARP デバッグ設定を無効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug arp error disable
```

関連コマンド **debug disable-all**
show sysinfo

debug avc

Application Visibility and Control (AVC) オプションのデバッグを設定するには、**debug avc error** コマンドを使用します。

debug avc {events | error} {enable | disable}

構文の説明

events AVC イベントのデバッグを設定します。

error AVC エラーのデバッグを設定します。

enable AVC イベントまたはエラーのデバッグを有効にします。

disable AVC イベントまたはエラーのデバッグを無効にします。

コマンドデフォルト

デフォルトでは、AVC オプションのデバッグは無効です。

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、AVC エラーのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug avc error enable
```

関連コマンド

config avc profile delete

config avc profile rule

config wlan avc

show avc profile

show avc applications

show avc statistics

debug bcast

ブロードキャスト オプションのデバッグを設定するには、**debug bcast** コマンドを使用します。

debug bcast {all | error | message | igmp | detail} {enable | disable}

構文の説明

all	すべてのブロードキャスト ログのデバッグを設定します。
error	ブロードキャスト エラーのデバッグを設定します。
message	ブロードキャスト メッセージのデバッグを設定します。
igmp	ブロードキャスト IGMP メッセージのデバッグを設定します。
detail	ブロードキャスト 詳細メッセージのデバッグを設定します。
enable	ブロードキャスト デバッグを有効にします。
disable	ブロードキャスト デバッグを無効にします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、ブロードキャスト メッセージに対するデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug bcast message enable
```

次に、ブロードキャスト メッセージに対するデバッグを無効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug bcast message disable
```

関連コマンド

debug disable-all
show sysinfo

debug call-control

SIP コール制御設定に対するデバッグを設定するには、**debug call-control** コマンドを使用します。

debug call-control {all | event} {enable | disable}

構文の説明	all	すべての SIP コール制御メッセージに対するデバッグ オプションを設定します。
	event	SIP コール制御イベントに対するデバッグ オプションを設定します。
	enable	SIP コール制御メッセージまたはイベントのデバッグを有効にします。
	disable	SIP コール制御メッセージまたはイベントのデバッグを無効にします。

コマンド デフォルト ディセーブル

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、すべての SIP コール制御メッセージのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug call-control all enable
```

debug capwap

Control and Provisioning of Wireless Access Points (CAPWAP) 設定のデバッグを設定するには、**debug capwap** コマンドを使用します。

```
debug capwap {detail | dtls-keepalive | errors | events | hexdump | info | packet |
payload | mfp} {enable | disable}
```

構文の説明	detail	CAPWAP の詳細設定のデバッグを設定します。
	dtls-keepalive	CAPWAP DTLS データ キープアライブ パケット設定のデバッグを設定します。
	errors	CAPWAP エラー設定のデバッグを設定します。
	events	CAPWAP イベント設定のデバッグを設定します。
	hexdump	CAPWAP 16進数ダンプ設定のデバッグを設定します。
	info	CAPWAP 情報設定のデバッグを設定します。
	packet	CAPWAP パケットの設定のデバッグを設定します。
	payload	CAPWAP ペイロード設定のデバッグを設定します。
	mfp	CAPWAP mfp 設定のデバッグを設定します。
	enable	CAPWAP のコマンドのデバッグを有効にします。
	disable	CAPWAP のコマンドのデバッグを無効にします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、CAPWAP の詳細のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug capwap detail enable
```

debug capwap reap

FlexConnect アクセス ポイントにおける Control and Provisioning of Wireless Access Points (CAPWAP) 設定のデバッグを設定するには、**debug capwap reap** コマンドを使用します。

debug capwap reap [mgmt | load]

構文の説明	mgmt	(任意) クライアント認証と関連メッセージのデバッグを設定します。
	load	(任意) ペイロード アクティビティのデバッグを設定します。FlexConnect アクセス ポイントをスタンダロンモードで起動する場合に便利です。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、FlexConnect クライアント認証および関連メッセージのデバッグを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug capwap reap mgmt
```


debug ccxdiag

Cisco Compatible Extensions (CCX) 診断オプションのデバッグを設定するには、**debug ccxdiag** コマンドを使用します。

debug ccxdiag {**all** | **error** | **event** | **packet**} {**enable** | **disable**}

構文の説明

all	すべての CCX S69 メッセージのデバッグを設定します。
error	CCX S69 エラーのデバッグを設定します。
event	CCX S69 イベントのデバッグを設定します。
packet	CCX S69 パケットのデバッグを設定します。
enable	CCX S69 オプションのデバッグを有効にします。
disable	CCX S69 オプションのデバッグを無効にします。

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、CCX S69 パケットのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ccxdiag packets enable
```

debug ccxrm

CCX Cisco Client Extension (CCX) 無線管理 (RM) のデバッグを設定するには、**debug ccxrm** コマンドを使用します。

```
debug ccxrm {all | detail | error | location-calibration | message | packet | warning}
{enable | disable}
```

構文の説明

all	すべての CCX RM メッセージのデバッグを設定します。
detail	CCX RM の詳細デバッグを設定します。
error	CCX RM エラーのデバッグを設定します。
location-calibration	CCXRM ロケーションキャリブレーションのデバッグを設定します。
message	CCX RM メッセージのデバッグを設定します。
packet	CCX RM パケットのデバッグを設定します。
warning	CCX RM 警告のデバッグを設定します。
enable	CCX RM オプションのデバッグを有効にします。
disable	CCX RM オプションのデバッグを無効にします。

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、CCX RM のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug ccxrm all enable
```

debug ccxs69

CCX S69 タスクのデバッグを設定するには、**debug ccxs69** コマンドを使用します。

```
debug ccxs69 {all | error | event} {enable | disable}
```

構文の説明

all	すべての CCX S69 メッセージのデバッグを設定します。
error	CCX S69 エラーのデバッグを設定します。
event	CCX S69 イベントのデバッグを設定します。
enable	CCX S69 オプションのデバッグを有効にします。
disable	CCX S69 オプションのデバッグを無効にします。

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、CCX S69 のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ccxs69 all enable
```

debug cckm

Cisco Centralized Key Management オプションのデバッグを設定するには、次のコマンドを使用します：**debug cckm**

debug cckm {**client** | **detailed**} {**enable** | **disable**}

構文の説明

client クライアントの Cisco Centralized Key Management のデバッグを設定します。

detailed Cisco Centralized Key Management の詳細デバッグを設定します。

enable Cisco Centralized Key Management のデバッグを有効にします。

disable Cisco Centralized Key Management のデバッグを無効にします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、Cisco Centralized Key Management の詳細デバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug cckm detailed enable
```

debug client

特定のクライアントのデバッグを設定するには、**debug client** コマンドを使用します。

debug client *mac_address*

構文の説明	<i>mac_address</i>	クライアントの MAC アドレス。
コマンド デフォルト	なし	
使用上のガイドライン	debug client <i>mac_address</i> コマンドの入力後に debug aaa events enable コマンドを入力すると、その特定のクライアント MAC アドレスの AAA イベント ログが表示されます。	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドが導入されました。

次に、特定のクライアントをデバッグする場合の設定例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug client 01:35:6x:yy:21:00
```

debug cts aaa

Cisco TrustSec AAA デバッグ オプションを設定するには、**debug cts aaa** コマンドを使用します。

debug cts aaa {**all** | **errors** | **events**} {**enable** | **disable**}

構文の説明

all すべての CTS AAA デバッグ オプションのデバッグを設定します。

errors すべての CTS AAA エラーのデバッグを設定します。

events すべての CTS AAA イベントのデバッグを設定します。

enable デバッグを有効にします。

disable デバッグを無効にします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
8.4	このコマンドが導入されました。

debug cts authz

Cisco TrustSec セキュリティ グループ アクセス コントロール リスト (SGACL) のダウンロード デバッグ オプションを設定するには、**debug cts authz** コマンドを使用します。

debug cts authz {aaa | all | errors | events} {enable | disable}

構文の説明

aaa	CTS AAA ポリシーのデバッグを設定します。
all	すべての CTS ポリシーのデバッグを設定します。
errors	すべての CTS ポリシー エラーのデバッグを設定します。
events	すべての CTS ポリシー イベントのデバッグを設定します。
enable	デバッグを有効にします。
disable	デバッグを無効にします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
8.4	このコマンドが導入されました。

debug cts capwap

CAPWAP メッセージを介して Cisco TrustSec ポリシーのダウンロードのデバッグオプションを設定するには、**debug cts capwap** コマンドを使用します。

debug cts capwap {**messages** | **all** | **errors** | **events**} {**enable** | **disable**}

構文の説明

messages Protected Access Credential (PAC) CAPWAP メッセージのデバッグを設定します。

all すべての CTS CAPWAP メッセージのデバッグを設定します。

errors CAPWAP エラーのデバッグを設定します。

events PAC CAPWAP イベントのデバッグを設定します。

enable デバッグを有効にします。

disable デバッグを無効にします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
8.4	このコマンドが導入されました。

debug cts env-data

Cisco TrustSec 環境データのデバッグを設定するには、**debug cts env-data** コマンドを使用します。

```
debug cts env-data {all | errors | events} {enable | disable}
```

構文の説明

all すべてのCTS環境データのデバッグを設定します。

errors CTS 環境データ エラーのデバッグを設定します。

events CTS 環境データ イベントのデバッグを設定します。

enable デバッグを有効にします。

disable デバッグを無効にします。

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース

変更内容

8.4

このコマンドが導入されました。

debug cts ha

Cisco TrustSec 高可用性 (HA) のデバッグ オプションを設定するには、**debug cts ha** コマンドを使用します。

debug cts ha {**all** | **errors** | **events**} {**enable** | **disable**}

構文の説明

all すべてのCTSHA オプションのデバッグを設定します。

errors CTS HA エラーのデバッグを設定します。

events CTS HA イベントのデバッグを設定します。

enable デバッグを有効にします。

disable デバッグを無効にします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
8.4	このコマンドが導入されました。

debug cts key-store

Cisco TrustSec キーストアのデバッグ オプションを設定するには、**debug cts key-store** コマンドを使用します。

debug cts key-store {**enable** | **disable**}

構文の説明

enable デバッグを有効にします。

disable デバッグを無効にします。

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース

変更内容

8.4

このコマンドが導入されました。

debug cts provisioning

Cisco TrustSec PAC プロビジョニングのデバッグ オプションを設定するには、**debug cts provisioning** コマンドを使用します。

```
debug cts provisioning {packets | all | errors | events} {enable | disable}
```

構文の説明

packets PAC プロビジョニング パケットのデバッグを設定します。

all すべてのPACプロビジョニングオプションのデバッグを設定します。

errors PAC プロビジョニング エラーのデバッグを設定します。

events PAC プロビジョニング イベントのデバッグを設定します。

enable デバッグを有効にします。

disable デバッグを無効にします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
8.4	このコマンドが導入されました。

debug cts sgt

最大 10 個の SGT のデバッグを設定するには、**debug cts sgt** コマンドを使用します。

```
debug cts sgt {sgt-1 | sgt-2 | sgt-3 | sgt-4 | sgt-5 | sgt-6 | sgt-7 | sgt-8 | sgt-9 | sgt-10}
```

構文の説明

sgt-1 ~ 入力する必要のある SGTID。
sgt-10

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
8.4	このコマンドが導入されました。

debug cts sxp

Cisco TrustSec SXP オプションのデバッグを設定するには、**debug cts sxp** コマンドを使用します。

debug cts sxp {**all** | **errors** | **events** | **framework** | **message**} {**enable** | **disable**}

構文の説明

all	すべての CTSSXP オプションのデバッグを設定します。
errors	CTS SXP エラーのデバッグを設定します。
events	CTS SXP イベントのデバッグを設定します。
framework	CTS SXP フレームワークのデバッグを設定します。
message	CTS SXP メッセージのデバッグを設定します。
enable	デバッグを有効にします。
disable	デバッグを無効にします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

debug cac

コールアドミッション制御（CAC）オプションのデバッグを設定するには、**debug cac** コマンドを使用します。

debug cac {all | event | packet} {enable | disable}

構文の説明

all	すべてのCACメッセージにデバッグオプションを設定します。
event	CACイベントにデバッグオプションを設定します。
packet	選択したCACパケットにデバッグオプションを設定します。
kts	KTS ベースのCACメッセージにデバッグオプションを設定します。
enable	CAC設定のデバッグを有効にします。
disable	CAC設定のデバッグを無効にします。

コマンドデフォルト

デフォルトでは、CACオプションのデバッグは無効です。

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

7.6 このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

次に、CAC設定のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug cac event enable
```

```
(Cisco Controller) > debug cac packet enable
```

関連コマンド

config 802.11 cac video acm
config 802.11 cac video max-bandwidth
config 802.11 video roam-bandwidth
config 802.11 cac video tspec-inactivity-timeout
config 802.11 cac voice load-based
config 802.11 cac voice roam-bandwidth
config 802.11cac voice stream-size

config 802.11cac voice tspec-inactivity-timeout

debug cdp

CDP のデバッグを設定するには、**debug cdp** コマンドを使用します。

debug cdp {events | packets} {enable | disable}

構文の説明

events CDP イベントのデバッグを設定します。

packets CDP パケットのデバッグを設定します。

enable CDP オプションのデバッグを有効にします。

disable CDP オプションのデバッグを無効にします。

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、Cisco コントローラで CDP イベントのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug cdp
```

debug crypto

ハードウェア暗号オプションのデバッグを設定するには、**debug crypto** コマンドを使用します。

debug crypto {all | sessions | trace | warning} {enable | disable}

構文の説明

all	すべてのハードウェアクリプトメッセージのデバッグを設定します。
sessions	ハードウェアクリプトセッションのデバッグを設定します。
trace	ハードウェアクリプトセッションのデバッグを設定します。
warning	ハードウェアクリプトセッションのデバッグを設定します。
enable	ハードウェア暗号セッションのデバッグを有効にします。
disable	ハードウェア暗号セッションのデバッグを無効にします。

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

7.6 このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

次に、ハードウェア暗号セッションのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug crypto sessions enable
```

関連コマンド

debug disable-all

show sysinfo

debug dhcp

DHCP のデバッグを設定するには、**debug dhcp** コマンドを使用します。

debug dhcp {message | packet} {enable | disable}

構文の説明	message	DHCP エラー メッセージのデバッグを設定します。
	packet	DHCP パケットのデバッグを設定します。
	enable	DHCP メッセージまたはパケットのデバッグを有効にします。
	disable	DHCP メッセージまたはパケットのデバッグを無効にします。

コマンドデフォルト なし

次に、DHCP メッセージのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug dhcp message enable
```

debug dhcp service-port

サービスポートでの Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) パケットのデバッグを有効または無効にするには、**debug dhcp service-port** コマンドを使用します。

debug dhcp service-port {enable | disable}

構文の説明	enable	サービスポートでの DHCP パケットのデバッグをイネーブルにします。
	disable	サービスポートでの DHCP パケットのデバッグをディセーブルにします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、サービスポートでの DHCP パケットのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug dhcp service-port enable
```

debug disable-all

すべてのデバッグ メッセージを無効にするには、**debug disable-all** コマンドを使用します。

debug disable-all

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。
-----	---------------------------------

次に、すべてのデバッグ メッセージを無効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug disable-all
```

debug dns

ドメイン ネーム システム (DNS) オプションのデバッグを設定するには、**debug dns** コマンドを使用します。

debug dns {**all** | **detail** | **error** | **message**} {**enable** | **disable**}

構文の説明

all	すべての DNS オプションのデバッグを設定します。
detail	DNS 詳細のデバッグを設定します。
error	DNS エラーのデバッグを設定します。
message	DNS メッセージのデバッグを設定します。
enable	DNS オプションのデバッグを有効にします。
disable	DNS オプションのデバッグを無効にします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、DNS エラーのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug dns error enable
```

debug dot11

802.11 イベントのデバッグを設定するには、**debug dot11** コマンドを使用します。

```
debug dot11 {all | load-balancing | management | mobile | nmsp | probe | rldp |
rogue | state} {enable | disable}
```

構文の説明	all	すべての 802.11 メッセージのデバッグを設定します。
	load-balancing	802.11 ロードバランシング イベントのデバッグを設定します。
	management	802.11 MAC 管理メッセージのデバッグを設定します。
	mobile	802.11 のモバイル イベントのデバッグを設定します。
	nmsp	802.11 NMSP インターフェイス イベントのデバッグを設定します。
	probe	プローブのデバッグを設定します。
	rldp	802.11 不正位置検出のデバッグを設定します。
	rogue	802.11 不正イベントのデバッグを設定します。
	state	802.11 モバイル状態遷移のデバッグを設定します。
	enable	802.11 のデバッグを有効にします。
	disable	802.11 のデバッグを無効にします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11 設定のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug dot11 state enable
(Cisco Controller) > debug dot11 mobile enable
```

debug dot11

802.11 イベントのデバッグを設定するには、**debug dot11** コマンドを使用します。

debug dot11 {all | load-balancing | management | mobile | nmsp | probe | rldp | rogue | state} {enable | disable}

構文の説明	all	すべての 802.11 メッセージのデバッグを設定します。
	load-balancing	802.11 ロードバランシングイベントのデバッグを設定します。
	management	802.11 MAC 管理メッセージのデバッグを設定します。
	mobile	802.11 のモバイル イベントのデバッグを設定します。
	nmsp	802.11 NMSP インターフェイス イベントのデバッグを設定します。
	probe	プローブのデバッグを設定します。
	rldp	802.11 不正位置検出のデバッグを設定します。
	rogue	802.11 不正イベントのデバッグを設定します。
	state	802.11 モバイル状態遷移のデバッグを設定します。
	enable	802.11 のデバッグを有効にします。
	disable	802.11 のデバッグを無効にします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11 設定のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug dot11 state enable
(Cisco Controller) > debug dot11 mobile enable
```


debug dot11 mgmt interface

802.11 管理インターフェイス イベントのデバッグを設定するには、**debug dot11 mgmt interface** コマンドを使用します。

debug dot11 mgmt interface

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11 管理インターフェイス イベントをデバッグする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug dot11 mgmt interface
```

debug dot11 mgmt msg

802.11 管理メッセージのデバッグを設定するには、**debug dot11 mgmt msg** コマンドを使用します。

debug dot11 mgmt msg

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース

変更内容

7.6

このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、dot11 管理メッセージを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug dot11 mgmt msg
```

debug dot11 mgmt ssid

802.11 管理イベントのデバッグを設定するには、**debug dot11 mgmt ssid** コマンドを使用します。

debug dot11 mgmt ssid

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11 SSID 管理イベントのデバッグを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug dot11 mgmt ssid
```

debug dot11 mgmt state-machine

802.11 ステート マシンのデバッグを設定するには、**debug dot11 mgmt state-machine** コマンドを使用します。

debug dot11 mgmt state-machine

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。
-----	-----------------------------------

次に、802.11 ステート マシンのデバッグを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug dot11 mgmt state-machine
```

debug dot11 mgmt station

管理ステーション設定のデバッグを設定するには、**debug dot11 mgmt station** コマンドを使用します。

debug dot11 mgmt station

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、管理ステーション設定のデバッグを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug dot11 mgmt station
```

debug dot1x

802.1X オプションのデバッグを設定するには、**debug dot1x** コマンドを使用します。

debug dot1x {aaa | all | events | packets | states} {enable | disable}

構文の説明

aaa	802.1X AAA 相互作用のデバッグを設定します。
all	すべての 802.1X メッセージのデバッグを設定します。
events	802.1X イベントのデバッグを設定します。
packets	802.1X パケットのデバッグを設定します。
states	802.1X 状態遷移のデバッグを設定します。
enable	802.1X オプションのデバッグを有効にします。
disable	802.1X オプションのデバッグを無効にします。

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.1X 状態遷移のデバッグをイネーブルにする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug dot1x states enable
```

debug dtls

Datagram Transport Layer Security (DTLS) オプションのデバッグを設定するには、**debug dtls** コマンドを使用します。

debug dtls {all | event | packet | trace} {enable | disable}

構文の説明

all	すべてのDTLSメッセージのデバッグを設定します。
event	DTLS イベントのデバッグを設定します。
packet	DTLS パケットのデバッグを設定します。
trace	DTLS トレースメッセージのデバッグを設定します。
enable	DTLS オプションのデバッグを有効にします。
disable	DTLS オプションのデバッグを無効にします。

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

使用上のガイドライン

ここで説明したデバッグアクションは、CAPWAPトラブルシューティングと組み合わせて使用されます。

次に、DTLS パケット デバッグをイネーブルにする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug dtls packet enable
```

debug fastpath

コントローラの 10 ギガビット イーサネット インターフェイスの問題をデバッグし、コントローラのすべての管理および制御機能の詳細を表示するには、**debug fastpath** コマンドを使用します。

```
debug fastpath [{disable|enable|errors|events|warning|log|status|dump|audit|clear}]
debug fastpath log [{error events show}]
debug fastpath dump [{stats DP_number} | {fpapoolDP_number} | {ownerdb} | {portdb}
| {preauthurl client-mac|0|1|All} | {tun4dbindexDP_number} | {scbdbindexDP_number} |
{cfgtool -- dump.sfp} | {urlacldbstart-acl-id start-rule-index} | {vlandb} | {dpcp-stats} | {
clear stats} | {systemdb} | {debug}{wlanappstatswlan_id}] | {appqosdb}]
```

構文の説明

disable	fastpath メッセージのデバッグを有効にします。
enable	fastpath メッセージのデバッグを無効にします。
errors	fastpath エラーに関連するデバッグメッセージを表示します。
events	fastpath イベントに関連するデバッグメッセージを表示します。
warnings	fastpath 警告に関連するデバッグメッセージを表示します。
log	ログ メッセージのデバッグを設定します。
<i>errors</i>	fastpath エラーのデバッグを設定します。
<i>events</i>	fastpath イベントのデバッグを設定します。
<i>show</i>	fastpath に関連する最新イベントのログを表示します。
status	fastpath 設定のステータスを表示します。
dump	CLI ダンプ コマンドを表示します。
stats	データ プレーンからのデバッグの統計情報を表示します。

<i>DP_number</i>	<p>選択したデータプレーン番号に基づいて、データプレーンの統計カウンタを表示します。値には0、1、[All]が含まれます。デフォルトのオプションは[All]です。次のように選択する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • シスコワイヤレス LAN コントローラ 2504 シリーズ、シスコワイヤレス LAN コントローラ 5508 シリーズ、シスコワイヤレス LAN コントローラ 7500 シリーズ、シスコワイヤレス LAN コントローラ 8500 シリーズにはインデックス 0。 • WiSM2 の 2 つのデータプレーンに対して、個々のデータプレーンまたは両方のデータプレーンの統計情報を表示するには、それぞれにインデックス 0 または 1 またはその両方。
fpapool	データプレーンのパケットバッファの統計情報を表示します。
<i>DP_number</i>	<p>データプレーン番号に基づいてパケットバッファの統計情報を表示します。値には0、1、[All]が含まれます。デフォルトのオプションは[All]です。次のように選択する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • シスコワイヤレス LAN コントローラ 2504 シリーズ、シスコワイヤレス LAN コントローラ 5508 シリーズ、シスコワイヤレス LAN コントローラ 7500 シリーズ、シスコワイヤレス LAN コントローラ 8500 シリーズにはインデックス 0。 • WiSM2 の 2 つのデータプレーンに対して、個々のデータプレーンまたは両方のデータプレーンの統計情報を表示するには、それぞれにインデックス 0 または 1 またはその両方。
ownerdb	データプレーンの所有者情報を表示します。
portdb	データプレーンのポートデータベースを表示します。
preauthurl	事前認証 URL が学習した IP アドレス。
<i>client-mac</i>	クライアントの MAC アドレス。

0 1 All	データプレーンのオプション。
tun4db	データプレーンから最初の 20 トンネルをダンプします。
<i>index</i>	入力されたインデックスから 20 のトンネルエントリをダンプします。WISM2 データプレーンのプロセッサを示すには、データプレーン番号 0/1 を使用する必要があります。
<i>DP_number</i>	<p>データプレーンから最初の 20 のクライアントエントリをダンプします。値には 0、1、[All] が含まれます。デフォルトのオプションは [All] です。次のように選択する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • シスコワイヤレス LAN コントローラ 2504 シリーズ、シスコワイヤレス LAN コントローラ 5508 シリーズ、シスコワイヤレス LAN コントローラ 7500 シリーズ、シスコワイヤレス LAN コントローラ 8500 シリーズにはインデックス 0。 • WiSM2 の 2 つのデータプレーンに対して、個々のデータプレーンまたは両方のデータプレーンの統計情報を表示するには、それぞれにインデックス 0 または 1 またはその両方。
scbdb	入力されたインデックスから始まる 20 のクライアントエントリをダンプします。WISM2 データプレーンのプロセッサを示すには、データプレーン番号 0/1 を使用する必要があります。
<i>index</i>	選択した MAC アドレスのクライアント情報をダンプします。

<i>DP_number</i>	<p>データプレーンから最初の20のクライアントエントリをダンプします。値には0、1、[All]が含まれます。デフォルトのオプションは[All]です。次のように選択する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • シスコワイヤレス LAN コントローラ 2504 シリーズ、シスコワイヤレス LAN コントローラ 5508 シリーズ、シスコワイヤレス LAN コントローラ 7500 シリーズ、シスコワイヤレス LAN コントローラ 8500 シリーズにはインデックス 0。 • WiSM2 の 2 つのデータプレーンに対して、個々のデータプレーンまたは両方のデータプレーンの統計情報を表示するには、それぞれにインデックス 0 または 1 またはその両方。
cfgtool -- dump.sfp	SX/LC/T 小型フォーム ファクタ プラグイン (SFP) モジュールのモデル/タイプと OUI 部品番号を表示します。
urlacldb <i>start-acl-id start-rule-index</i>	URL ACL データベースをダンプします。
vlandb	データプレーンの VLAN データベースをダンプします。
dpcp-stats	データプレーンからコントロールプレーンへのメッセージの統計情報を表示します。
clear stats	データプレーン統計カウンタをクリアします。
systemdb	グローバル データ プレーン設定を表示します。
debug	トラブルシューティングを有効にするため、データプレーンのいくつかの最新メッセージを表示します。
wlanappstats	WLAN の Application Visibility and Control (AVC) 統計情報を表示します。
<i>wlan_id</i>	AVC 統計情報を特定するために必要な WLAN の WLAN ID。
appqosdb	データプレーンの Application Visibility and Control (AVC) データベース統計情報を表示します。
clear	コマンドをクリアします。

コマンド デフォルト なし

コマンド履歴

リリース 変更内容

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

8.3 このコマンドは、本リリースで強化されました。追加された新しいキーワードは **urlacldb** です。

8.6 このコマンドは、本リリースで強化されました。追加された新しいキーワードは **preauthurl** です。

使用上のガイドライン なし

例

次に、SX/LC/T 小型フォームファクタ プラグイン (SFP) モジュールのモデル/タイプとそれぞれの OUI 部品番号の例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug fastpath status
```

Pr	Type	STP Stat	Admin Mode	Physical Mode	Physical Status	Link Status	Link Trap	POE
1	Normal	Forw	Enable	Auto	1000 Full	Up	Enable	N/A
1000BaseTX								
2	Normal	Forw	Enable	Auto	1000 Full	Up	Enable	N/A
1000BaseTX								

次に、status コマンドの実行中に表示される fastpath ステータスの例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug fastpath status
```

```
FP0.03:(119115)Received command: FP_CMD_ACL_COUNTER_GET
FP0.00:(119115)Received command: FP_CMD_ACL_COUNTER_GET
FP0.06:(119115)Received command: FP_CMD_ACL_COUNTER_GET
FP0.05:(119115)Received command: FP_CMD_ACL_COUNTER_GET
FP0.06:(119115)Received command: FP_CMD_ACL_COUNTER_GET
FP0.03:(119115)Received command: FP_CMD_ACL_COUNTER_GET
FP0.06:(119115)Received command: FP_CMD_ACL_COUNTER_GET
FP0.07:(119125)Received command: FP_CMD_ACL_COUNTER_GET
FP0.04:(119125)Received command: FP_CMD_ACL_COUNTER_GET
FP0.03:(119125)Received command: FP_CMD_ACL_COUNTER_GET
```

次に、debug fastpath log errors コマンドの実行中に表示される fastpath エラーの例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug fastpath log errors
```

```
FP0.04:(873365) [fp_ingress_capwap:429]Discarding Control/Data
```

```
Plane DTLS-Application packets after Lookup Failed
FP0.02:(873418)Change logDebugLevel from: 0x1e to 0x9
```

次に、`debug fastpath log events` コマンドの実行中に表示される `fastpath` イベントの例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug fastpath log events
```

```
FP0.09:(873796)[fp_ingress_capwap:429]Discarding Control/Data
Plane DTLS-Application packets after Lookup Failed
FP0.06:(873921)Change logDebugLevel from: 0x9 to 0x1e
```

次に、`debug fastpath log show` コマンドの実行中に表示される例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug fastpath log show
```

```
FP0.07:(874033)Change logDebugLevel from: 0x1e to 0x9
Fastpath CPU0.02: FAST CACHE DISABLED
Fastpath CPU0.02: FAST CACHE ENABLED
Fastpath CPU0.00: Received command: FP_CMD_ADD_AP
Fastpath CPU0.05: Received command: FP_CMD_DEL_TUN4 ifTun=1113
Fastpath CPU0.03: Received command: FP_CMD_DEL_TUN4 ifTun=3161
Fastpath CPU0.03: Received command: FP_CMD_DEL_AP
FP0.02:[cmdDelMcastRgTun:6733]failed to delete mcast rg tun 0 ifTun=3161
FP0.07:[fp_ingress_capwap:429]Discarding Control/Data Plane
DTLS-Application packets after Lookup Failed
FP0.01:[fp_ingress_capwap:429]Discarding Control/Data Plane
DTLS-Application packets after Lookup Failed
Fastpath CPU0.01: Received command: FP_CMD_ADD_TUN4 type=CAPWAP
ifTun=1114 dstIP
=9.4.110.100 dstMac=2037.06e2.5ec4 dstIPv6=
0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000
Fastpath CPU0.01: Tunnel 1114 srcip=9041820 dstip=9046e64
xor=0x7644(30276) LAG Offset=0,0,0,0,1,0,1,4
Fastpath CPU0.09: Received command: FP_CMD_ADD_TUN4 type=CAPWAP
ifTun=3162 dstIP
=9.4.110.100 dstMac=2037.06e2.5ec4 dstIPv6=
0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000
Fastpath CPU0.09: Tunnel 3162 srcip=9041820 dstip=9046e64
xor=0x7644(30276) LAG Offset=0,0,0,0,1,0,1,4
Fastpath CPU0.00: Received command: FP_CMD_SET_INTERFACE_MTU
Fastpath CPU0.00: FAST CACHE DISABLED
Fastpath CPU0.00: FAST CACHE ENABLED
Fastpath CPU0.00: Received command: FP_CMD_ADD_AP
Fastpath CPU0.03: Received command: FP_CMD_UPDATE_EOIP for index=5122
Fastpath CPU0.02: Received command: FP_CMD_UPDATE_EOIP for index=5122
Fastpath CPU0.00: Received command: FP_CMD_DEL_TUN4 ifTun=1114
Fastpath CPU0.03: Received command: FP_CMD_DEL_TUN4 ifTun=3162
Fastpath CPU0.03: Received command: FP_CMD_DEL_AP
FP0.04:[cmdDelMcastRgTun:6733]failed to delete mcast rg tun 0 ifTun=3162
```

debug flexconnect avc

Flexconnect Application Visibility and Control (AVC) イベントをデバッグするには、**debug flexconnect avc** コマンドを使用します。

debug flexconnect avc {event | error | detail} {enable | disable}

構文の説明

event FlexConnect AVC イベントをデバッグします。

error FlexConnect AVC エラーをデバッグします。

detail FlexConnect AVC の詳細をデバッグします。

enable デバッグを有効にします。

disable デバッグを無効にします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

8.1 このコマンドが導入されました。

次に、イベントのデバッグアクションを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug flexconnect avc event enable
```

debug flexconnect aaa

FlexConnect バックアップ RADIUS サーバのイベントまたはエラーのデバッグを設定するには、**debug flexconnect aaa** コマンドを使用します。

```
debug flexconnect aaa {event | error} {enable | disable}
```

構文の説明	event	FlexConnect RADIUS サーバイベントのデバッグを設定します。
	error	FlexConnect RADIUS サーバエラーのデバッグを設定します。
	enable	FlexConnect RADIUS サーバ設定のデバッグを有効にします。
	disable	FlexConnect RADIUS サーバ設定のデバッグを無効にします。
コマンドデフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、FlexConnect RADIUS サーバイベントのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug flexconnect aaa event enable
```

debug flexconnect acl

FlexConnect アクセスコントロールリスト (ACL) のデバッグを設定するには、**debug flexconnect acl** コマンドを使用します。

debug flexconnect acl {enable | disable}

構文の説明	enable	FlexConnect ACL のデバッグを有効にします。
	disable	FlexConnect ACL のデバッグを無効にします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、FlexConnect ACL のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug flexconnect acl enable
```


debug flexconnect cckm

FlexConnect Cisco Centralized Key Management (CCKM) 高速ローミングのデバッグを設定するには、**debug flexconnect cckm** コマンドを使用します。

debug flexconnect cckm {enable | disable}

構文の説明	enable	FlexConnect CCKM 高速ローミング設定のデバッグを有効にします。
	disable	FlexConnect CCKM 高速ローミング設定のデバッグを無効にします。
コマンドデフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、FlexConnect CCKM 高速ローミング イベントのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug flexconnect cckm event enable
```

debug group

アクセス ポイントのグループのデバッグを設定するには、**debug group** コマンドを使用します。

debug group {**enable** | **disable**}

構文の説明	enable	アクセス ポイントグループのデバッグを有効にします。
	disable	アクセス ポイントグループのデバッグを無効にします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

次に、アクセス ポイント グループのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug group enable
```

debug fmchs

コントローラの Fixed Mobile Convergence 引き渡しサービス (FMCHS) のデバッグを設定するには、**debug fmchs** コマンドを使用します。

debug fmchs {all | error | event | nmosp | packet} {enable | disable}

構文の説明

all	すべての FMCHS メッセージのデバッグを設定します。
error	FMCHS エラーのデバッグを設定します。
event	FMCHS イベントのデバッグを設定します。
nmosp	FMCHS NMSP イベントのデバッグを設定します。
packet	FMCHS パケットのデバッグを設定します。
enable	FMCHS オプションのデバッグを有効にします。
disable	FMCHS オプションのデバッグを無効にします。

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、FMCHS イベントのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug fmchs event enable
```

debug flexconnect client ap

FlexConnect クライアント アクセス ポイントの MAC アドレスをデバッグするには、**debug flexconnect client ap** コマンドを使用します。

debug flexconnect client ap *ap-name* {**add** | **delete**} *MAC-address1* *MAC-address2* *MAC-address3* *MAC-address4*

構文の説明	add グループに MAC アドレスを追加します。
	delete グループから MAC アドレスを削除します。
	<i>MAC-address</i> クライアントの MAC アドレス
コマンド デフォルト	なし
コマンド履歴	リリー 変更内容 ス
	8.1 このコマンドが追加されました。

次に、FlexConnect クライアント AP の 'room' MAC アドレスをデバッグする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug flexconnect client ap room add 00.0c.41.07.33.a6
0A.0c.52.17.97.b6
```

debug flexconnect client ap syslog

FlexConnect クライアント AP の syslog サーバのデバッグ ロギングを設定するには、**debug flexconnect client ap** コマンドを使用します。

```
debug flexconnect client ap ap-name syslog {ip-address | disable}
```

構文の説明

ip-address デバッグ ロギング用に syslog サーバ IP アドレスを設定します。

disable Syslog サーバへのデバッグ ロギングを無効にします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

8.1	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

次に、FlexConnect クライアント AP 'room' のデバッグ ログ用に syslog サーバを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug flexconnect client ap room syslog 192.168.1.1
```

debug flexconnect client group

FlexConnect クライアントグループの MAC アドレスをデバッグするには、**debug flexconnect client group** コマンドを使用します。

```
debug flexconnect client group group-name {add | delete} MAC-address1 MAC-address2
MAC-address3 MAC-address4
```

構文の説明	add	グループに MAC アドレスを追加します。
	delete	グループから MAC アドレスを削除します。
	<i>MAC-address</i>	クライアントの MAC アドレス。
コマンドデフォルト	なし	
コマンド履歴	リリー	変更内容
	8.1	このコマンドが追加されました。

次に、FlexConnect クライアントグループの MAC アドレスをデバッグする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug flexconnect client group school add 00.0c.41.07.33.a6
0A.0c.52.17.97.b6
```

debug flexconnect client group syslog

FlexConnect グループ アクセス ポイントの syslog をデバッグするには、**debug flexconnect client group** コマンドを使用します。

debug flexconnect client group *group-name* **syslog** *ip-address* | *disable*

構文の説明

ip-address デバッグ ロギング用に syslog サーバ IP アドレスを設定します。

disable Syslog サーバへのデバッグ ロギングを無効にします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

8.1 このコマンドが追加されました。

次に、FlexConnect クライアント グループ 'school' をデバッグ ロギング用に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug flexconnect client group school syslog 192.168.1.1
```

debug flexconnect group

FlexConnect アクセス ポイント グループのデバッグを設定するには、**debug flexconnect group** コマンドを使用します。

debug flexconnect group {enable | disable}

構文の説明	enable	FlexConnect アクセス ポイント グループのデバッグを有効にします。
	disable	FlexConnect アクセス ポイント グループのデバッグを無効にします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、FlexConnect アクセス ポイント グループのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug flexconnect group enable
```


debug ft

802.11r のデバッグを設定するには、**debug ft** コマンドを使用します。

```
debug ft {events | keys} {enable | disable}
```

構文の説明

events 802.11r イベントのデバッグを設定します。

keys 802.11r キーのデバッグを設定します。

enable 802.11r オプションのデバッグを有効にします。

disable 802.11r オプションのデバッグを無効にします。

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11r のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ft events enable
```

debug hotspot

ホットスポット イベントまたはパケットのデバッグを設定するには、**debug hotspot** コマンドを使用します。

debug hotspot {events | packets} {enable | disable} {enable | disable}

構文の説明

events	ホットスポット イベントのデバッグを設定します。
packets	ホットスポット パケットのデバッグを設定します。
enable	ホットスポット オプションのデバッグを有効にします。
disable	ホットスポット オプションのデバッグを無効にします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、ホットスポット イベントのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug hotspot events enable
```

debug ipv6

IPv6 オプションのデバッグを設定するには、**debug ipv6** コマンドを使用します。

```
debug ipv6 {all | bt | classifier | errors | events | filter | fsm | gleaner | hwapi |
memory | ndsuppress | parser | policy | ra_throttler | switcher} {enable | disable}
```

構文の説明

all	すべての IPv6 情報のデバッグを設定します。
bt	IPv6 ネイバー バインディング テーブルのデバッグを設定します。
classifier	IPv6 パケット分類子のデバッグを設定します。
errors	IPv6 エラーのデバッグを設定します。
events	IPv6 イベントのデバッグを設定します。
filter	IPv6 のデバッグのためのフィルタを設定します。
fsm	IPv6 有限ステート マシン (FSM) のデバッグを設定します。
gleaner	IPv6 グリーナーのデバッグを設定します。エントリの学習は gleaning (グリーン ニング、収集) と呼ばれます。
hwapi	IPv6 ハードウェア API のデバッグを設定します。
memory	IPv6 バインディング テーブル メモリ使用量のデバッグを設定します。
ndsuppress	抑制された IPv6 ネイバー探索のデバッグを設定します。
parser	IPv6 パーサーのデバッグを設定します。
policy	IPv6 ポリシーのデバッグを設定します。
ra_throttler	IPv6 ルータ アドバタイジング スロットラのデバッグを設定します。
switcher	IPv6 スイッチャのデバッグを設定します。
enable	IPv6 オプションのデバッグを有効にします。
disable	IPv6 オプションのデバッグを無効にします。

コマンドデフォルト

なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、IPv6 ポリシーのデバッグを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug ipv6 policy enable
```